

ムンバイ市ダラーヴィ・コリワダ地区における
パブリックスペースの利用に関するアンケート調査
報告書（速報版）

2026 年 6 月

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系

小野悠研究室

（学部 4 年：小林日向）

アンケート調査概要

本調査の対象地であるムンバイはマハーラーシュトラ州の州都で、アラビア海に面するインド西端に位置する都市である (Figure. a)。首都デリーに次ぐインド第 2 の都市でもあり、603.4 km²、人口は 2026 年現在約 2,210 万人程度と推計されている。

市内中心部に位置するダラーヴィは、かつて植民地時代に一部の産業や低賃金労働者が強制的に追いやられた地区である。農村部を中心としたインド全土からの移民の流入は独立後も続き、職住一体の生活基盤が形成されていく過程で高密度化したインフォーマル市街地へと変貌していった。多様な産業の集積によって製造業の要所として社会経済の一端を担っている一方、劣悪な衛生環境や生活インフラの欠如などを特徴とするその存在は、近代的な都市計画における課題として認知されている。このような都市の隙間に生まれたパブリックスペース利用者の基礎情報や利用実態を把握することは、自発的なまちづくりによる適応力と包摂性を評価するために必要だと考えられる。

本調査ではインフォーマル市街地におけるパブリックスペース利用者の基礎情報を明らかにすることを目的とし、居住形態、雇用形態、出自をはじめとした文化的背景に焦点を当てたインタビュー形式のアンケート調査を実施した。

調査対象のパブリックスペースは、ダラーヴィ北部のコリワダ地区内から選定した 2 地点とコリワダ地区に含まれていない 1 地点の計 3 地点である (Figure. c)。コリワダ地区は Koli と呼ばれる先住民族が暮らす漁村としての歴史を持ち、現在もコミュニティ組織の体制などにおいてその伝統性が残る地域である。

本調査で選定したパブリックスペース 3 地点は、住民による活動や滞留が顕著に見られたことから選定した。その空間的な特徴を以下に示す。

- Fatima Bai Chawl : ダラーヴィ外縁部の幹線道路に隣接し、ヒンドゥー教の寺院を有する
- Ganesha Sagar : 3 地点の中で最も広く、多くの住民がバイクの駐輪場所としても使用する
- Goda Maidan : 3 地点の中で最も狭く、高さ 3 階建て程度の建物に囲まれる

Table.1 アンケート調査概要

実施期間	2026 年 5 月 25 日～28 日
実施場所	インド国マハーラーシュトラ州ムンバイ市 ダラーヴィ地域・コリワダ地区の 2 地点とコリワダ地区に隣接する 1 地点 Fatima Bai Chawl : ヒンドゥー教の寺院を有し、コリワダ地区から外れている Ganesha Sagar : 多くの住民がバイクを駐輪している Goda Maidan : 3 階建て程度の建物に囲まれている
回答数	・ Fatima Bai Chawl : 22 件 ・ Ganesha Sagar : 20 件 ・ Goda Maidan : 23 件
対象者	パブリックスペース利用者
アンケート項目	性別・年齢・居住地・居住形態・出自がコリワダか否か・居住年数・雇用形態勤務地・労働者のビジネスタイプ・出生地・母語・宗教・回答者が Koli か否か

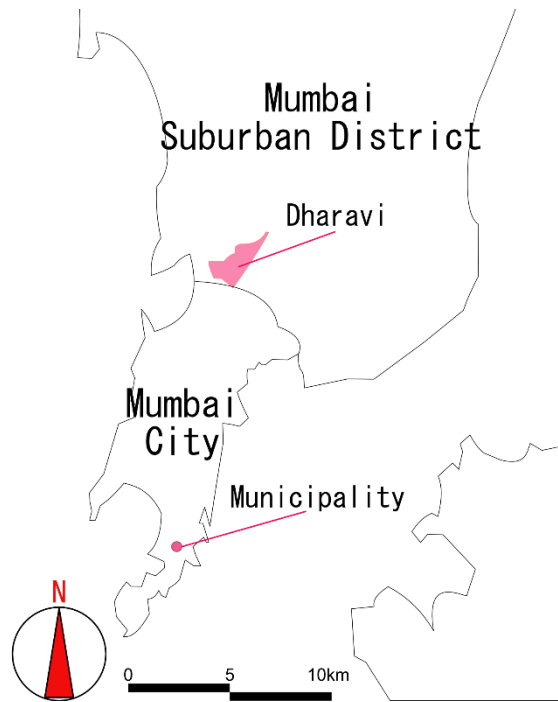


Figure.a ムンバイ市におけるダラーヴィの位置

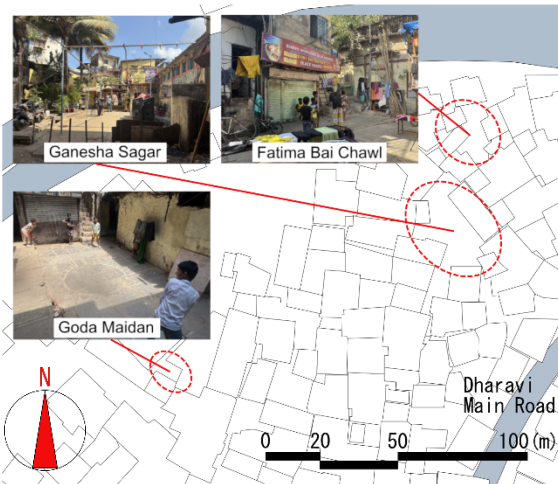


Figure.b ダラーヴィにおけるコリワダ地区の位置

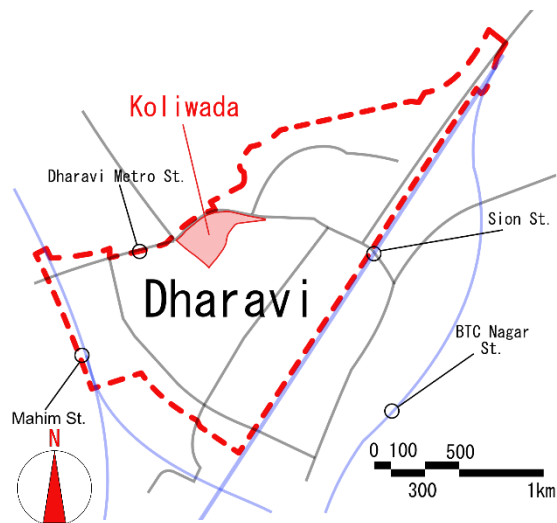


Figure.c コリワダ地区と3つのパブリックスペースの位置

アンケート調査結果

1. 性別・年齢

回答者の性別について、Fatima Bai Chawl では男女が半数ずつであったのに対し、他の2地点ではそれぞれ男性が75%、65%と女性よりも多い割合となった(Figure1.1)。

年齢に着目すると、Fatima Bai Chawl では10代が32%と最も多く、次いで20代が23%、30代が14%、40代が18%となり、残りの割合は10代未満および50代以上が占めている。Ganesha Sagar では10代が半数の50%を占め、20代および40代が5%、30代が10%、50代が15%、70代が10%である。Goda Maidan では3地点の中でも10代未満および10代の割合が最も多く、それぞれ17%、61%であった。また残りの割合は20代が13%、50代が9%である。本調査ではいずれの地点でも60代の回答者は見られなかった(Figure1.2)。

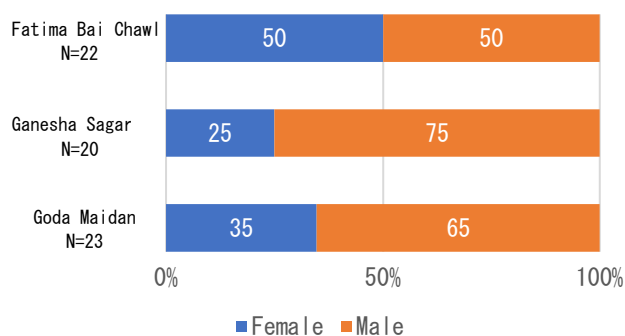


Figure1.1 性別

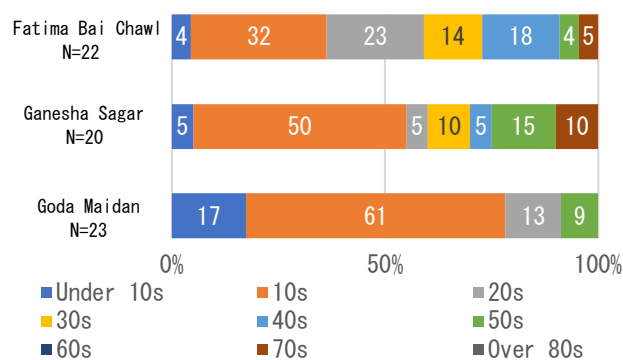


Figure1.2 年齢

2. 居住状況

回答者の居住地について、Fatima Bai Chawl ではコリワダ地区在住(This area)の住民が 77%と最も多く、その他ダラーヴィ地域在住者が 23%であった。Ganesha Sagar ではコリワダ地区在住者が 80%を占め、次いでマハーラーシュトラ州内の地域、コリワダを除くその他ダラーヴィ内の地域がそれぞれ 10%であった。Goda Maidan では全ての回答者がコリワダ地区在住だった(Figure2. 1)。

居住形態に着目すると、Fatima Bai Chawl では賃貸人と借家人がそれぞれ 55%、45%と約半数ずつを占めていた。Ganesha Sagar では賃貸人が半数を占め、次いで借家人が 30%、パガディが 20%だった。パガディとは、借家人が高額の権利金を支払うことで強い居住権を獲得する特有の住宅システムであり、実質的に準所有者に近い権利を持つために、物件オーナーとして賃貸借を行うことができる。Goda Maidan ではパガディが 78%と最も多く、次いでビルディングオーナーが 13%、テナントが 9%だった(Figure2. 2)。

回答者の出自に着目すると、Fatima Bai Chawl では全てのパブリックスペース利用者がコリワダ地区で生まれ育ったと答えていた。Ganesha Sagar では 90%が、Goda Maidan では 91%がコリワダ地区で生まれ育ったと回答した(Figure2. 3)。

回答者の居住年数に着目すると、Fatima Bai Chawl では 6-20 年と 21-50 年が全体の 90%以上を占めており、それぞれ 46%、45%だった。Ganesha Sagar では 6-20 年が半数を占め、次いでコリワダ地区に住んでいないという回答が 20%、21-50 年と 50 年以上が 15%だった。Goda Maidan では 6-20 年が 78%と大部分を占めていた(Figure2. 4)。

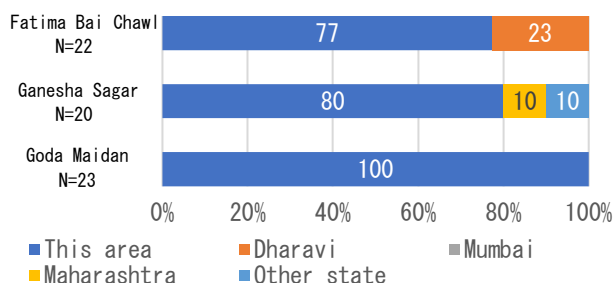


Figure2.1 現在の居住地

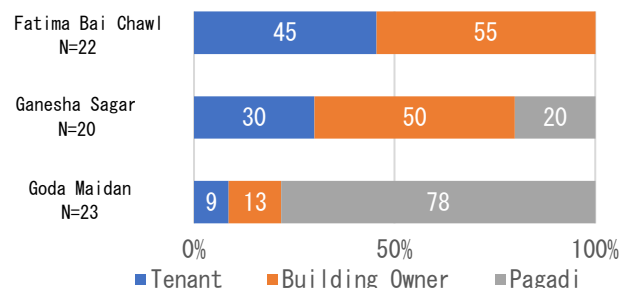


Figure2.2 居住形態

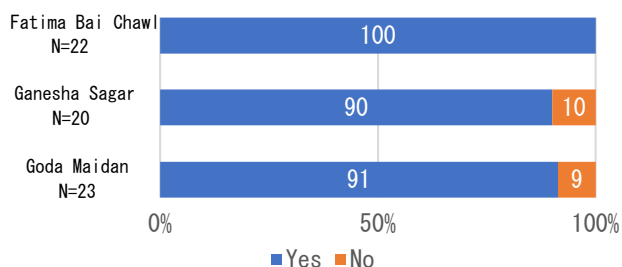


Figure2.3 「出自がコリワダか否か」に対する回答

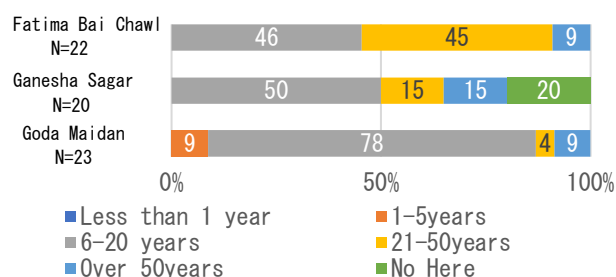


Figure2.4 居住年数

3. 雇用状況

雇用形態について、Fatima Bai Chawl では学生が 55%と最も多く、次いで被雇用者と専業主婦がそれぞれ 18%であった。Ganesha Sagar でも学生が 53%を占め、専業主婦が 26%、被雇用者が 16%であった。Goda Maidan では特に学生の割合が大きく 83%を占め、被雇用者が 17%であった (Figure3. 1)。

勤務地について、Fatima Bai Chawl ではムンバイ市内に勤める住民が 52%と約半数を占め、コリワダ地区内およびその他ダラーヴィ地域を勤務先とする住民は 24%であった。Ganesha Sagar でもムンバイ市内を勤務地とする住民が 56%と最も多く、次いでその他の州が 22%、コリワダ地区内が 17%、ダラーヴィが 5%であった。Goda Maidan も同様にムンバイ市まで勤務に赴く住民が過半数を占め、その割合は 61%、コリワダを除くその他ダラーヴィ地域が 39%であった (Figure3. 2)。

ビジネスタイプについて、Fatima Bai Chawl では客室清掃が 50%半数を占め、次いで介護者と衣類がそれぞれ 25%であった。Ganesha Sagar では牧師、PC データ入力係、インド国鉄が各 33%となり、Goda Maidan では融資と客室清掃、建設作業員、生命保険代理店が各 25%であった (Figure3. 3)。

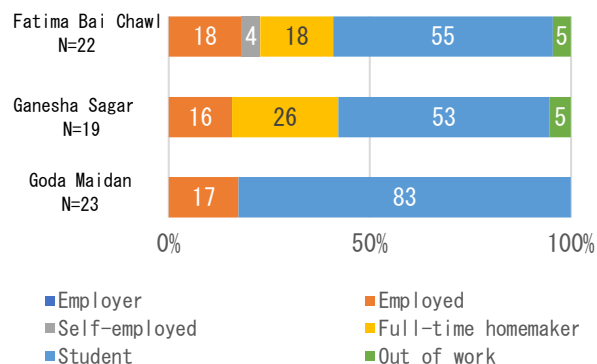


Figure3.1 雇用形態

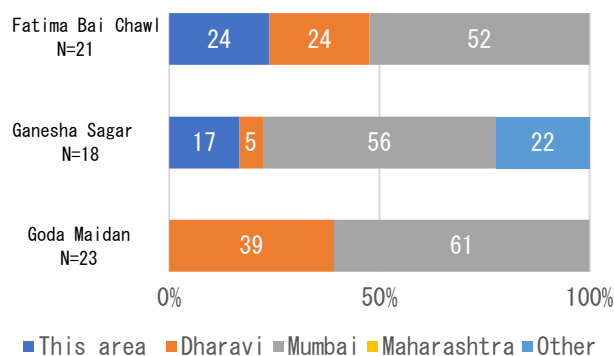


Figure3.2 勤務地

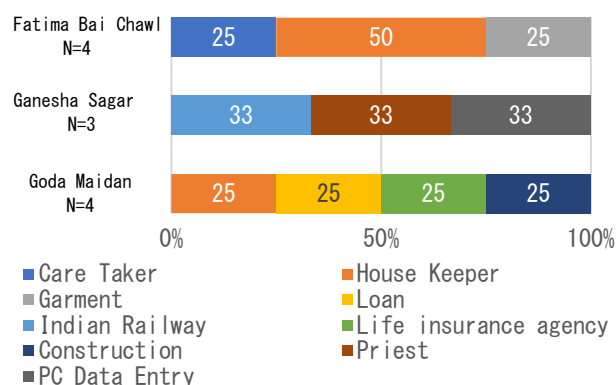


Figure3.3 労働者のビジネスタイプ

4. 文化的背景

回答者の出生地について、Fatima Bai Chawl ではカルナタカ州と回答した住民が 68%、タミル・ナードゥ州が 32%と、全回答が 2 つの州で構成されていた。Ganesha Sagar ではマハーラーシュトラ州と回答した住民が 35%と最も多く、次いでダラーヴィとタミル・ナードゥ州が 25%、グジャラート州が 10%、カルナタカ州が 5%と、多様な州で構成されていた。Goda Maidan でも同様に複数の州が回答で挙げられ、カルナタカ州が 44%と最も多く、次いでグジャラート州が 22%、ダラーヴィが 17%、タミル・ナードゥ州が 13%、マハーラーシュトラ州が 4%であった (Figure4. 1)。

母国語について Fatima Bai Chawl ではカンナダ語が 68%と最も多く、タミル語が 32%と 2 つの言語で構成されていた。Ganesha Sagar ではマラーティー語が半数を占め、次いでタミル語が 25%、グジャラート語とウルドゥー語が 10%、カンナダ語が 5%であった。Goda Maidan ではカンナダ語が 52%と過半数を占め、次いでグジャラート語が 26%、タミル語が 13%、マラーティー語が 9%であった (Figure4. 2)。

宗教について Fatima Bai Chawl、Ganesha Sagar とともにヒンドゥー教が 95%と大多数を占め、キリスト教が 5%であった。Goda maidan ではヒンドゥー教が 74%と最も多く、キリスト教が 26%と他の 2 地点よりも多い (Figure4. 3)。

回答者が先住民族の家系にあたる Koli か否か、という問いに対して、Fatima Bai Chawl と Goda Maidan では全ての回答者が No と答えた。しかし Ganesha Sagar では 3 地点でも唯一の Koli 住民がみられた (Figure4. 4)。

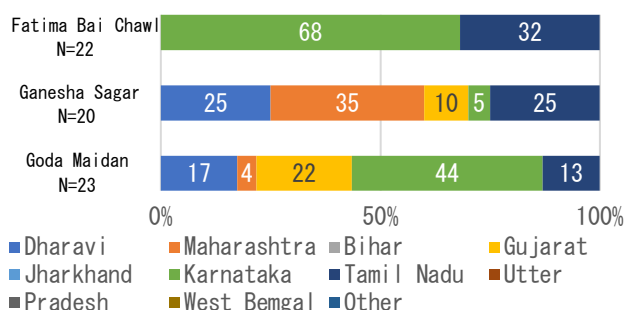


Figure4.1 回答者のルーツとなる地域

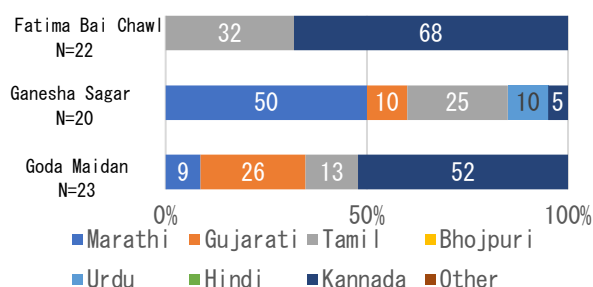


Figure4.2 母語

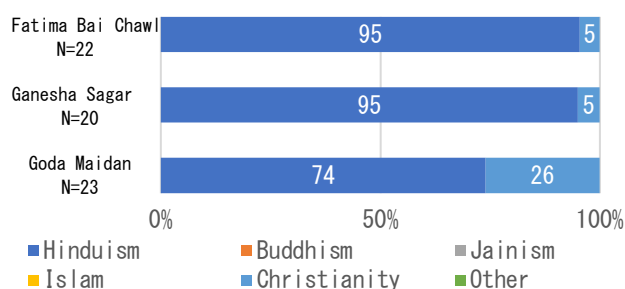


Figure4.3 宗教

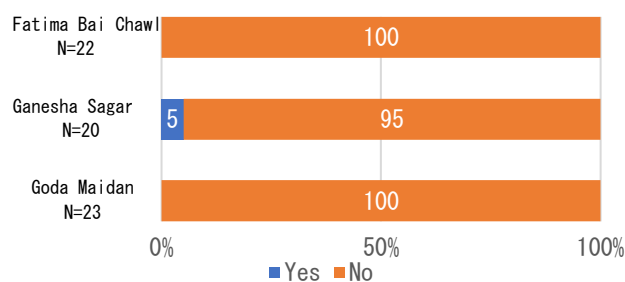


Figure4.4 「回答者が Koli か否か」に対する回答

まとめ

Fatima Bai Chawl

このパブリックスペースの利用者は10代が最も多く、性別は男女ともに同数であった。彼らの現在の居住地はコリワダ地区内がほとんどであり、一部の利用者はダラーヴィ内の他の地区で生活していることが分かった。また他の2地点とは異なり、この地点にパガディのコリワダ住民がいないことが特徴といえる。利用者の出自として全員がコリワダ地区内で生まれ育っており、その居住歴は6-20年および21-50年という回答が9割以上であった。しかしこの地点では、コリワダ地区の先住民族の家系に当たるKoliの住民は見られなかった。

雇用に関する質問では、利用者に若年層の住民が多かったこともあるためか学生が半数を占めた。被雇用形態での就労者は18%を占め、主要な勤務地としてムンバイ市の都市部まで通っていることが明らかとなった。

出生地をはじめとした文化的背景について、主要な出生地や家系のルーツとしてカルナタカ州およびタミル・ナードゥ州が挙げられた。母国語も各々の言語であるカルナタカ語およびタミル語のみが全回答を占めていた。また宗教についてはヒンドゥー教が主要である一方、一部の住民はキリスト教であることも明らかとなった。

Ganesha Sagar

Fatima Bai Chawlと同様にこのパブリックスペースの主な利用者は10代であったが、性別をみると男性が全体の4分の3を占めていた。居住地として、利用者のほとんどがコリワダ地区内に暮らし、一部の利用者はマハーラーシュトラ州内の別地域といった遠方に居住していることが分かった。また居住状況については利用者の半数が賃貸人であり、家賃収入を得ている。出自についてはコリワダ地区内で生まれ育った住民が9割を占めたほか、3地点の中でも唯一のKoliの住民がみられた。

雇用に関する質問では、Fatima Bai Chawlと同様に学生と答えた人が半数を占めた。就業地としてコリワダ地区内で働く住民は17%に留まり、残りの大多数はムンバイ市内の他の地域などまで仕事に赴いている。

文化的背景について、主要な出生地や家系のルーツとしてマハーラーシュトラ州、ダラーヴィ、タミル・ナードゥ州といった多様な回答を得られたが、他の2地点では主要であるカルナタカ州という回答は比較的少なかった。

Goda Maidan

このパブリックスペースの利用者は10代以下の子供たちが約8割を占めており、男性の方が多い。回答者全員がコリワダ地区内に暮らしており、特にパガディである住民が78%を占めていることがこの地点の特徴といえる。居住年数は他2地点と同様に6-20年が最多回答であったが、その割合は最も大きく約8割を占めた。

雇用に関する質問では、本地点でも学生と答えた利用者が過半数を占めた一方、他の2地区と異なり専業主婦という回答は見られなかった。勤務地はダラーヴィ内もしくはムンバイ市内でのみ構

成されていた。

文化的背景について、主要な出生地や家系のルーツとしてカルナタカ州、グジャラート州、ダラ－ヴィが多く、これに対応するように母国語もカンナダ語、グジャラート語が多かった。宗教に関してヒन्दゥー教がほとんどを占めていたが、他の 2 地点よりもキリスト教と答えた人の割合が高かったことが分かった。